



2022年3月期 第1四半期決算説明資料

株式会社ヴィス

東京証券取引所 市場第二部 証券コード：5071

2021年8月10日

INDEX

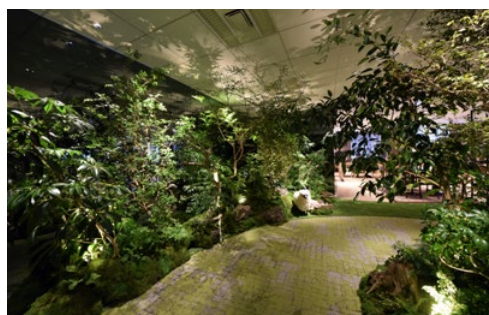
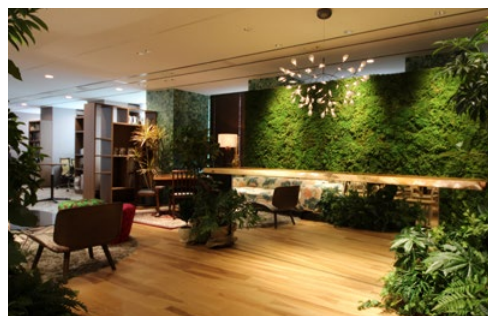
- 01 会社概要 COMPANY PROFILE
- 02 コロナ禍におけるはたらき方の変化と取り組み with COVID-19
- 03 2022年3月期 第1四半期業績 FY2021 Q1 RESULTS
- 04 2022年3月期業績予想 FY2021 OUTLOOK

01

会社概要

COMPANY PROFILE





| | |
|--------|---------------------------|
| 商号 | 株式会社ヴィス |
| 代表者 | 代表取締役社長 中村 勇人 |
| 設立年月日 | 1998年4月13日 |
| 本社所在地 | 大阪府大阪市北区梅田三丁目4番5号 |
| 資本金 | 516,910千円 < 2021年6月末現在 > |
| 決算期 | 3月末日 |
| 事業概要 | デザイナーズオフィス事業 VISビル事業 |
| 発行済株式数 | 8,163,550株 < 2021年6月末現在 > |
| 社員数 | 229名 < 2021年6月末現在 > |
| 監査法人 | 有限責任あずさ監査法人 |

同じベクトルを持った強力なメンバー

全 22 項目からなるクレド（社訓）を共有し、仕事に対しての向き合い方から物事の判断軸、人としてどうあるべきかまで全社員に浸透させています。

ヴィスメンバーとして同じ想いを共有し文化を醸成していく、仲間と同じ考え方を持つことによる共感反応がシナジーを生み出します。



クレド…22 条からなる組織の価値観を決めるヴィスの礎。ヴィスが人を育てる仕組み

はたらく人々を幸せに。

ヴィスの仕事は、オフィスに笑顔を運ぶこと。

人生において多くの時間を過ごすオフィスという空間に変化をもたらし、はたらく人々を幸せにする。

そして、その一人ひとりの幸せが大きなモチベーションに変わり、企業が成長するエネルギーとなる。

これからも、日本全国および世界中で、はたらく人々がいるすべての場所に笑顔を運びます。



経営戦略としてのデザイン

ヴィスでは、企業が持つ「想い」や「らしさ」をデザインすることで、CI（コーポレート・アイデンティティ）の確立と企業ブランディングの構築を実現します。「360° デザイン」をベースに、企業が持つVI（ビジュアル・アイデンティティ）に一貫性のあるデザインを提供することによってさまざまなシナジーを生み出し、ブランド力の向上を促し、企業価値を高めます。

これが「デザイナーズオフィス」という経営戦略です。



DESIGNER'S OFFICE から WORK DESIGN COMPANY へ

ビジュアルデザインから「はたらく」のデザインへ



ワークデザインのプロセス



継続的な企業価値向上の実現

CONSULTING

- ①「ココエル」によるエンゲージメントの調査と改善
- ②「wit」による適正な場所・坪数・席数の洗い出し
- ③「Workplace Survey」からのワーカーの実態調査
- ④「estie」による物件の検索
- ⑤ ワークショップ、トップインタビュー、アンケート

WORKSTYLING

- ⑥「The Place」からの最適なはたらき方の情報収集
- ⑦ コワーキング・シェアオフィスの活用検討

BRANDING

- ⑧ OFFICE DESIGN
- ⑨ WEB DESIGN
- ⑩ DTP DESIGN

2022年3月期第1四半期業績

第1四半期(4~6月)で過去最高の売上高となりました

売上高

2,296 百万円

前年同期比

133.5%

営業利益

153 百万円

前年同期比

452.3%

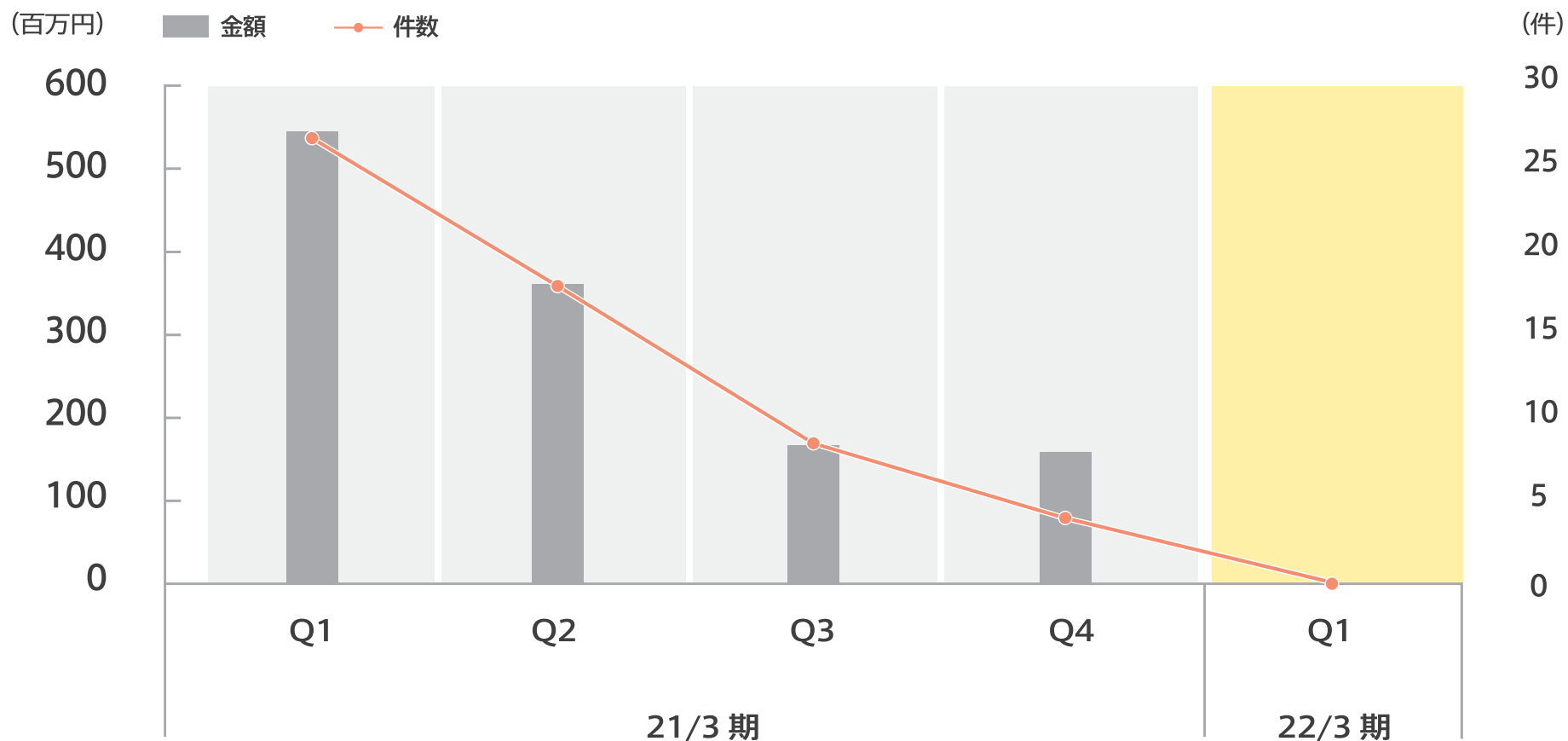
02

コロナ禍における はたらき方の変化と取り組み

with COVID-19

新型コロナウイルス感染症拡大による営業活動への影響

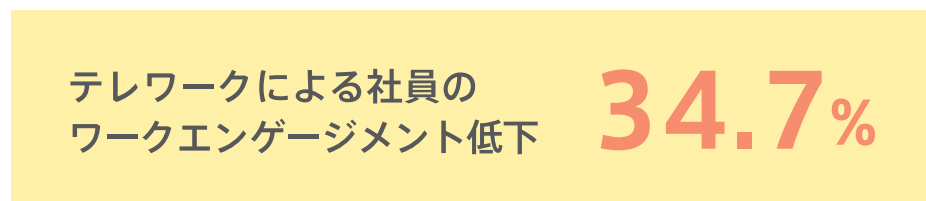
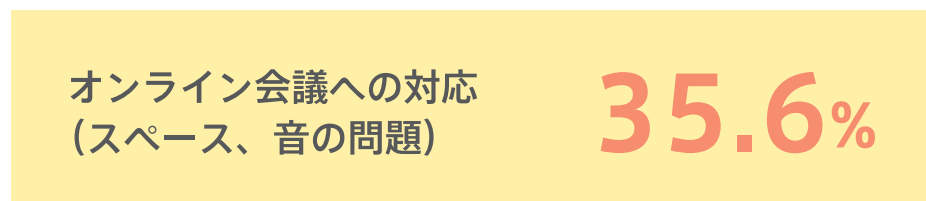
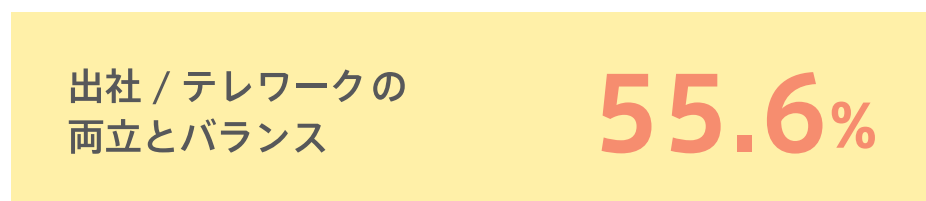
新型コロナウイルス感染症拡大によるオフィス移転・増床計画の延期等の件数・金額はともに**減少傾向**



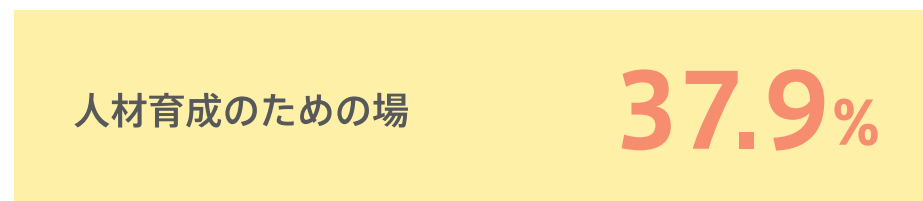
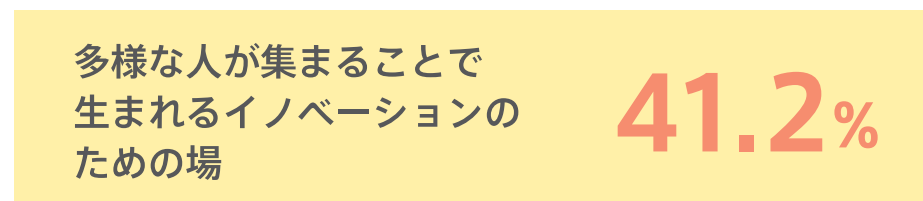
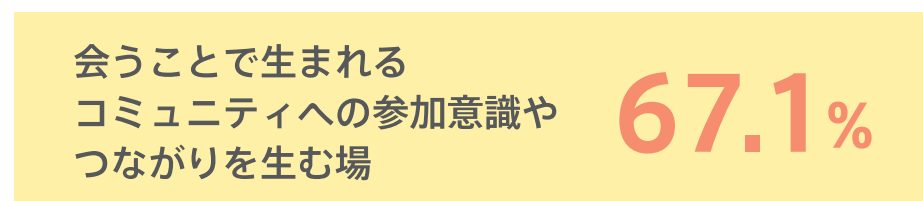
コロナ禍におけるオフィスの課題と考え方の変化

VISが2020年8月に実施したアンケート結果では、新型コロナウイルス感染症拡大により、テレワークが急速に普及した影響と課題がはっきりし始め、オフィスを持つことの意味を再考し、新しく構築する必要があることが分かりました。

現在のオフィスの課題



今後のオフィスに求めること



アンケート「緊急事態宣言解除後進んだテレワークの実態とコロナ時代のオフィスのありかたについて」2020年8月実施より n=340

オフィスは「カルチャープレイス」へ

“with コロナ”に対応したオフィスデザイン・働き方の相談や提案が増加し、2021年2月、具体的なワークスタイルやオフィスレイアウトを提案するレポート「After COVID-19 Workstyle Project vol.2」を新たに公開しました。その中で、オフィスははたらくだけでなく、会社のカルチャーを醸成する場であると提言しました。



CULTURE PLACE

VISION

企業ビジョンへの共感

会社が目指すものを
社員に共有し、
共感を育む場

COMMUNITY

コミュニティへの帰属意識

一体感を醸成し、
愛着やつながりを
感じられる場

GROWTH

個と組織の成長

自分らしい働き方で組織に
貢献し、相互に持続的な
成長を促す場

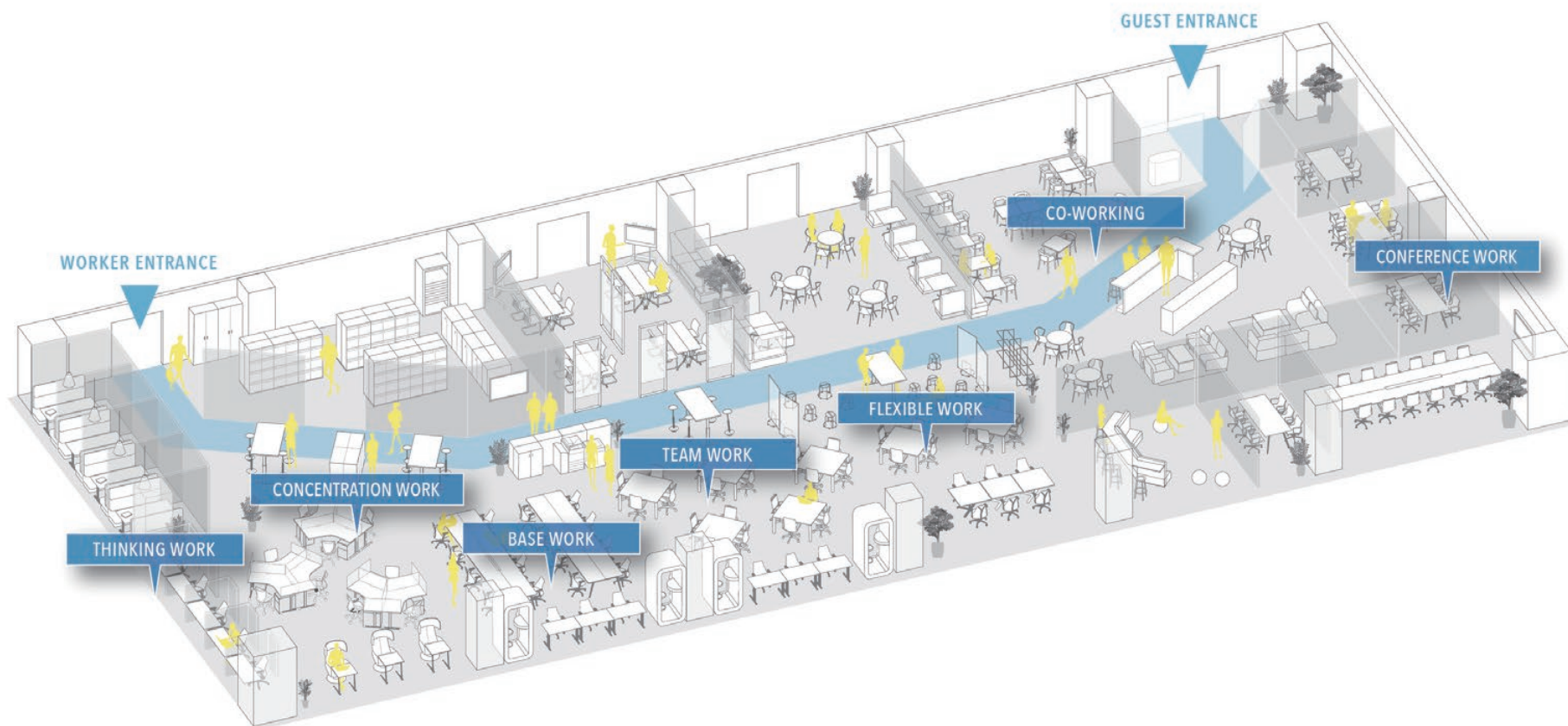
INNOVATION

イノベーションの創出

多様な価値観をもつ人が
集まり、新たな価値を
創造する場

これからのオフィスを構成する7つの働き方

また、「After COVID-19 Workstyle Project vol.2」では、環境の変化によりさらに定着が進むと考えられる、フリーアドレスと ABW の活用、社内外との交流とイノベーションを促進する仕掛け、在籍人数や社会状況の変化への対応、オンライン会議への対応など、これからのオフィスを構成する7つの働き方を定義しました。



アフターコロナに向けたヴィスでの取り組み

社員数に対する席数を 80%に削減し、コミュニケーションを目的としたレイアウトで設計。

緩やかに固定された「グループアドレス」から、フラッグシップ（ベースとなる場所）を中心に自由度を高くした「ゾーンアドレス」へと変化し、目的に合わせてはたらくことができる多機能なデスクを用意しました。

オフィスはカルチャープレイスになるという考えのもと、オフィスで働くことの意味を再定義しました。



03

2022年3月期第1四半期業績

FY2021 Q1 RESULTS

2022年3月期第1四半期業績

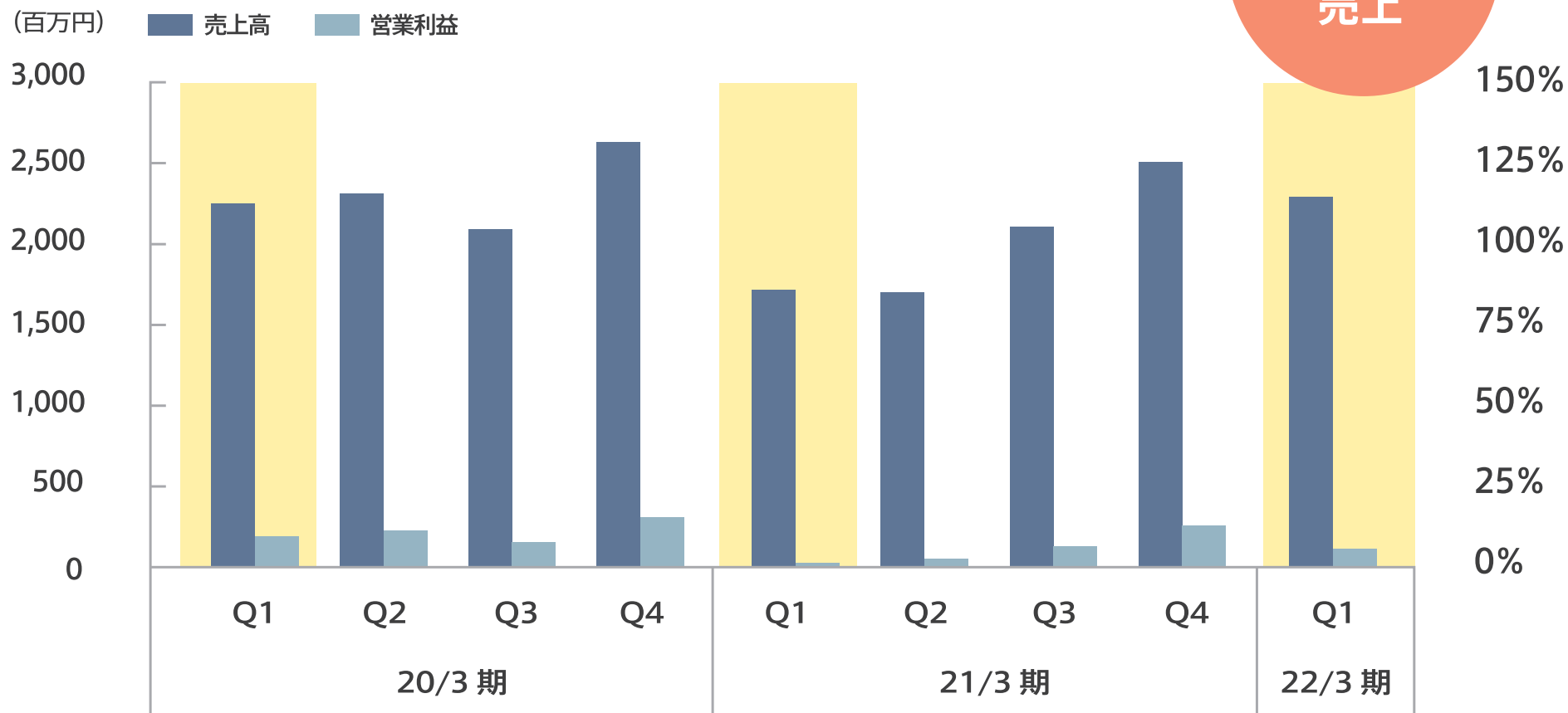
| | | |
|------|-----------|-----------------|
| 売上高 | 2,296 百万円 | 前年同期比 133.5% |
| 営業利益 | 153 百万円 | 前年同期比 452.3% |

TOPICS

- 売上高が第1四半期(4~6月)で**過去最高に**
- 受注残が前年同期比 **157.3%** の **1,684百万円**
- 大規模案件(1億円以上)の受注 **4件453百万円**
- 自己資本比率 : **67.0%**

売上高と営業利益の推移

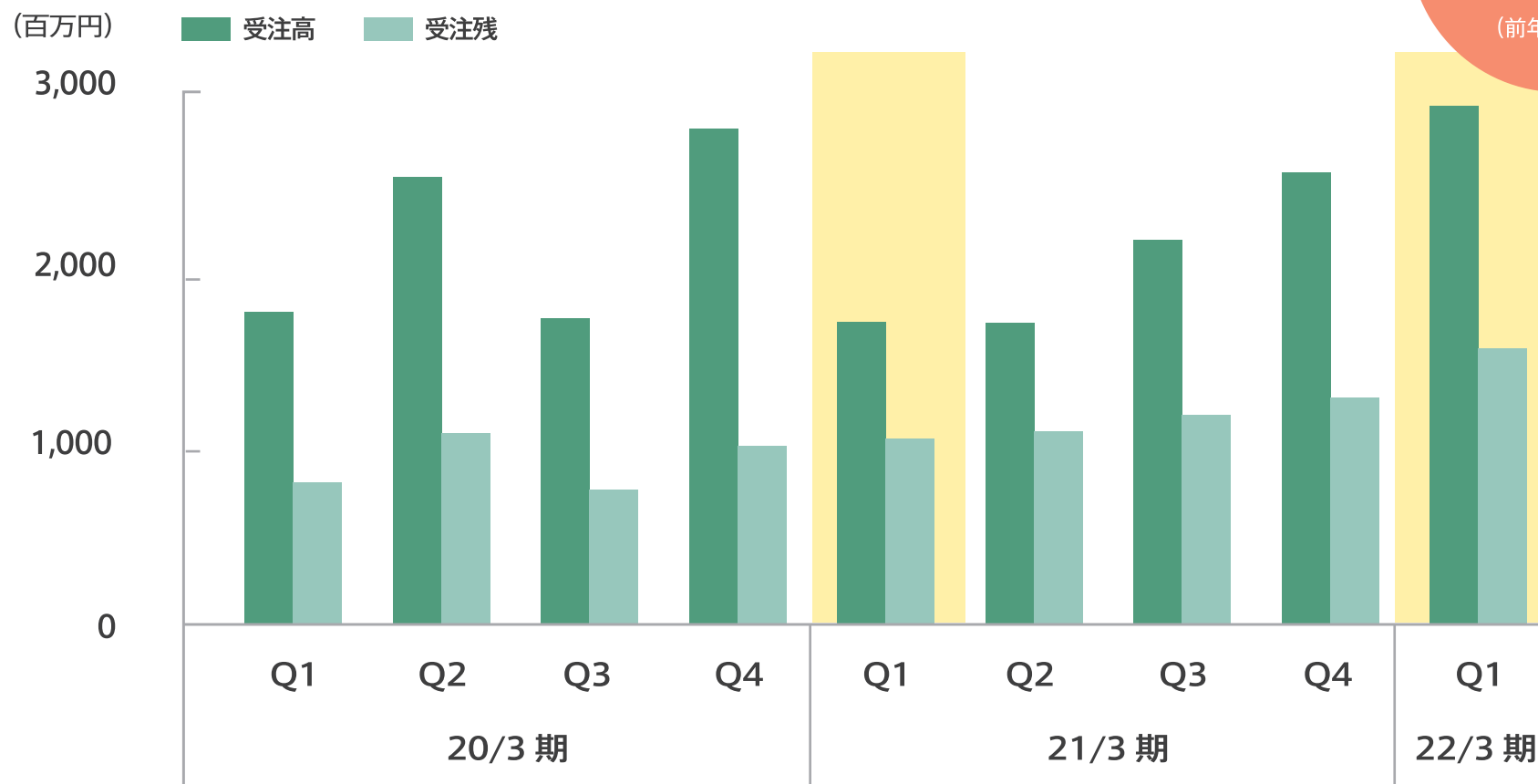
“with コロナ” に対応したオフィスデザインの需要増加により、第1四半期の売上高は**過去最高に**



受注高・受注残の推移

大規模案件（1億円以上）を4件受注したことにより、受注高は2,939百万円（前年同期比：**167.2%**）、受注残は1,684百万円（同**157.3%**）と**大幅に増加**

受注高
167.2%
受注残
157.3%
(前年同期比)



(注) 受注高及び受注残には、不動産の賃料収入を含めておりません。

新型コロナウイルス感染症拡大前の水準へ回復

大規模案件（1億円以上）が2件完工したことにより、売上高 2,296 百万円（前年同期比 **133.5%**）・営業利益 153 百万円（同 **452.3%**）

（百万円）

| | 21/3期 Q1 | 22/3期 Q1 | 前年同期比 |
|--------|----------|----------|--------|
| | 実績 | 実績 | |
| 売上高 | 1,719 | 2,296 | 133.5% |
| 売上総利益 | 448 | 604 | 134.9% |
| 営業利益 | 34 | 153 | 452.3% |
| 経常利益 | 33 | 153 | 455.2% |
| 四半期純利益 | 22 | 101 | 443.8% |

自己資本比率は 67.0% と 60% 台を維持

- 流動資産は、現金及び預金の増加等により 204 百万円増加 固定資産は、東京オフィス改装費用等により 19 百万円増加
- 流動負債は前受金の増加等により 187 百万円増加
- 純資産は、四半期純利益の計上等により 36 百万円増加

(百万円)

| | 21/3 期 | | 22/3 期 Q1 | | 前期末比 | |
|-------|--------|--------|-----------|--------|------|-------|
| | 実績 | 構成比 | 実績 | 構成比 | 増減額 | 構成比 |
| 資産の部 | 5,271 | 100.0% | 5,495 | 100.0% | 223 | — |
| 流動資産 | 3,074 | 58.3% | 3,278 | 59.7% | 204 | 1.4% |
| 固定資産 | 2,196 | 41.7% | 2,216 | 40.3% | 19 | △1.4% |
| 負債の部 | 1,623 | 30.8% | 1,811 | 33.0% | 187 | 2.2% |
| 流動負債 | 1,614 | 30.6% | 1,801 | 32.8% | 187 | 2.2% |
| 固定負債 | 9 | 0.2% | 9 | 0.2% | — | — |
| 純資産の部 | 3,647 | 69.2% | 3,684 | 67.0% | 36 | △2.2% |
| 株主資本 | 3,647 | 69.2% | 3,684 | 67.0% | 36 | △2.2% |

03

2022年3月期業績予想

FY2021 OUTLOOK

増収増益の見込み

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が一定期間に渡り継続することを想定

売上高が回復しつつあることを踏まえ、**売上高は前年同期を上回る見込み**


営業利益、経常利益、当期純利益についても、売上高の増加に伴い前年同期を上回る見込み

| | | | |
|----------------|------|-----------|--------------|
| 2022年3月期 予想 | 売上高 | 9,167 百万円 | 前年同期比：113.5% |
| | 営業利益 | 590 百万円 | 前年同期比：113.1% |

(百万円)

| | 21/3 期 | 22/3 期 | 前年同期比 |
|-------|--------|--------|--------|
| | 実績 | 予想 | |
| 売上高 | 8,075 | 9,167 | 113.5% |
| 売上総利益 | 2,142 | 2,443 | 114.0% |
| 営業利益 | 522 | 590 | 113.1% |
| 経常利益 | 510 | 590 | 115.7% |
| 当期純利益 | 331 | 389 | 117.6% |

2030年 売上高 250 億円

-  CONSULTING からの売上拡大と既存事業とのシナジー
-  WORK STYLING からの売上拡大
-  BRANDING 領域の売上拡大



注意事項

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成されるものであり、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買い付けの申込みの勧誘（以下、「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。
- 本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。
また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。
- 本資料には、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない財務諸表又は計算書類に基づく財務情報が含まれています。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社ヴィス

管理本部 I R 担当

MAIL : ir@vis-produce.com

URL : <https://vis-produce.com/>